

中国語と日本語の略語法

劉 文 起

1. はじめに

時代の流れに連れて、これまでになかったいろいろな事物が現れ、それと共に言語は目覚ましく変化し、新語が生まれる。語彙の変化は世の中の変化を常に反映していると言える。

漢字は一字一字にそれぞれ意味があり、字と字の組合わせを変えることによって、簡単に新語ができてしまう。同じ漢字を使う中国語と日本語には共通の語がたくさんあるものの、特に現代語の二字語に限って見れば、互いに通用しない語も少なくない。中国語と日本語は、音韻、音節、形態、構文などの面で異なる性格をもっている。ここでは、略語という観点から中国語と日本語を対照し、考察する。

2. 略語のとらえかた

中国語の略語について、次のような記述がある。

「由詞組緊縮而成的合成詞。如：土改（土地改革）、掃盲（掃除文盲）、脱産（脱離生産）、培幹（培養幹部）、滄桑（滄海桑田）。」（詞組の縮小によってできた合成語。例えば、土改＝土地改革（土地改革）、掃盲＝掃除文盲（文盲の現象を消滅する）、脱産＝脱離生産（生産現場を離れる）、培幹＝培養幹部（幹部を養成する）、滄桑＝滄海桑田（滄海桑田＝世の中の意））。

（『現代漢語詞典』商務印書館）

一方、日本語では次のような記述がある。

「ある語の一部を何らかの方法で省略または簡略した形で、なおもとの意味を保っているもの。」

（『日本文法大辞典』明治書院）

以上のように、略語については中日両語とも、語形を何らかの方法で長大なものから短小なものにする点でとらえることができる。

3. 中国語の略語について

3. 1. 中国語における略語法の分類

中国語の略語法は、次の4種類が挙げられる。

(1) 縮合法

これは結合するそれぞれの元の語の一部分を残して再結合し、短小語形をつくることである。例えば、

科学技術	→	科技	(科学技術)
静止エネルギー	→	静能	(静止状態のエネルギー)
反対覇権	→	反覇	(覇権主義を反対する)
帰国華僑	→	帰僑	(帰国した華僑)

などである。

(2) 節略法

これは普通、いくつかの語が結合して字数の多い語をつくる場合にあらわれる方法で、その語を構成している構成語の中から重要な一語だけを残して他の部分を切り捨てることである。例えば、

農村人民公社	→	公社	(農村人民公社)
農業発展綱要	→	綱要	(農業発展綱要)
在延安文藝座談会上的讲话	→	講話	(延安文藝座談会での発言)
中国人民解放軍	→	解放軍	(中国人民解放軍)

などである。

(3) 簡代法

これは、字数の多い語の代わりに、簡潔な短い語を使う方法である。このような略語は元の語との関係は語ごとに異なっていて、多様である。また、ここに含まれる略語は科学技術用語や地名が多い。例えば、

戦術空中導航系統	→	塔康系統	(タコーシステム)
可以観測的物理的量	→	宏観量	(観測可能の物理的量)
南京	→	寧	
山東	→	魯	
湖南	→	湘	

などがある。

(4) 数言葉による略語法

これは、いくつかの語に含まれる共通な語を取り出して、その数を表す語と結合してできた語である。例えば、

講文明、講礼貌、講衛生、講秩序、講道德	→	五講	(文明、礼儀、衛生、秩序、道德という五つの提唱)
農業現代化、工業現代化、科学技術現代化、国防現代化	→	四化	(農業、工

業、科学技術、国防という四つの現代化)

心霊美、行為美、語言美、環境美 → 四美 (心、行為、ことば、環境という
四つの美)

身体好、学習好、工作好 → 三好 (体質、勉強、勤労という三つの評価)
などである。

3. 2. 中日略語の基本語形の比較

中国語の略語は基本的に以上の(1)～(4)のように分類される。そこで一例として4単位語から2単位語へ語形が短小される中日両語の例をあげると次のようになる。

中国語の例

機械鍛造 → 機鍛 (機械での圧延加工) 静止能量 → 静能 (静止状態エネルギー)
食品療法 → 食療 (食品による治療) 查点庫存 → 查庫 (在庫をしらべる)
帰国華僑 → 帰僑 (帰国した華僑) 水平飛行 → 平飛 (水平飛行)
保護糧食 → 護糧 (食糧を守る) 予防台風 → 防台 (予防台風)
工廠鉞山 → 廠鉞 (工場鉞山) 優良品種 → 良種 (優良品種)
予防潮訊 → 防訊 (津波を防ぐ) 防治害虫 → 治虫 (害虫を防ぐ)

日本語の例

駅弁 → 駅弁 航空母艦 → 空母
街頭録音 → 街録 出産休暇 → 産休
刑事訴訟 → 刑訴 機械水雷 → 機雷

4. 日本語と中国語の略語法の違い

4. 1. 中国語の略語法の特徴

(1) 語順の入れ替え

中国語における略語では、略語とその元の語からとった部分の配列が入れ違う場合がある。例えば、

防治血吸虫病 → 血防 (住血吸虫病を防止する)
交直流双輸出発電機 → 双流発電機 (交流、直流出力発電機)
熱伝導係数 → 導熱係数 (熱伝導関数)
自動電圧調整器 → 調圧器 (自動電圧調整器)

のように、略語になる過程で語順が変わっている。このような略語は、日本語では見

られない。

(2) ことばのいい替え

これは重要な語だけ残して省略する方法で、その際、ことばのいい替えをする。例えば、

中華人民共和国体育運動委員会 → 国家体委

中華人民共和国經濟委員会 → 国家經委

この場合では、「体育運動委員会」を「体委」に、「經濟委員会」を「經委」に略し、「中華人民共和国」を「国家」にいい替える。

また、略語に使う数字の「二」は通常「双」という場合がよくある。「双」とは通常、「対」の意味で使われている。次のような例がある。

百花齊放、百家争鳴 → 双百

搶収、搶種 → 双搶

基礎理論、基礎技術 → 双基

さらに次のように地名ではいい替え語は多い。例えば、

上海 → 滬 南京 → 寧 広州 → 穗 山東 → 魯

山西 → 晋 湖南 → 湘 広西 → 桂 河南 → 豫

のようである。こういう現象は、歴史や地理的特徴を反映している場合が多い、

4. 2. 日本語の略語法の特徴

一方、日本語には、中国語にない略語法がある。それは日本語表記の多様化、単語構造の欧米語化などによる場合が多い。例えば、

脱サラリーマン → 脱サラ

省エネルギー → 省エネ

白いナンバープレートタクシー → 白タク

バス停留所 → バス停

このような語は漢語、和語、外来語の多種語による語形を持つ。

また、日本語では

シブヤ（渋谷） → ブヤ

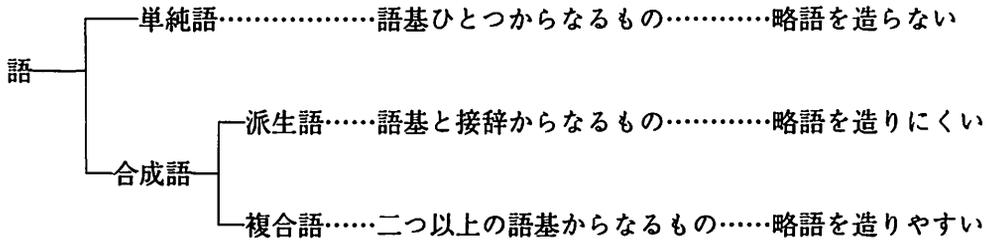
ヒメジ（姫路） → メジ

ニカイ（二階） → ニカ

のような語を構成する音節の省略によって略語を構成する例があるが、中国語で音節を省くことは文字一字が減ることとつながるので、こういう略語法が見られない。

5. まとめ

以上の観察により、略語は主として「複合語」から造られ、語の分類から見れば、次の表のような位置を占める。



また、結合の意味的關係には、統語的な構造が反映されている。略語はこれらの複合語を基盤にして、そこから意味的選択によって語の構成部分を抽出し、語の意味的内容が等質になるように語形を短小化したのである、と結論される。

<参考文献>

- 中本正智 1980 『日本語の表現と構造』 エポナ出版
国立国語研究所 1971 『電子計算機による新聞の語彙調査』 秀英出版
国語学会編 1980 『国語学大辞典』 東京堂出版
岩波書店編 1877 『岩波講座 日本語 2』 岩波書店
森岡健二 1969 『近代語の成立 明治期語彙編』 明治書院
田中章夫 1978 『国語語彙論』 明治書院
南不二男 1974 『現代日本語の構造』 大修館書店

(Liu Wenqi・東京都立大学聴講生)